

第5回 地域づくりビジョン審議会 議事録（発言内容まとめ）※町HP用

・日時：令和6年3月18日（月）
19時00分～20時40分
・場所：問寒別生涯学習センター

[出席者(敬称略)]

審議会委員 11名

芳野 福一／中村 智江／和田 和子／糠 由季／橋元 誠／森崎 英典／
遠藤 雅樹／阿部 由裕／高木 健太郎／小川 加津子／牛崎 英一

オブザーバー 5名

幌延町議会議員 齋賀 弘孝

幌延町役場問寒別出張所 秋山 将

（地独）北海道立総合研究機構 石井 旭、牛島 健（リモート）

（株）エスエーデザインオフィス一級建築士事務所 小倉 寛征（リモート）

その他 7名

歴史地域未来創造（株）やまち 神長 敬、安東 勇人（メモトック）

地域おこし協力隊 出口正美

幌延町 町長 野々村 仁、副町長 岩川 実樹

事務局（幌延町役場） 山下 智昭、渡邊 涼太

[傍聴人数] 2名

1. 開会
2. 委員長 挨拶
3. 幌延町 町長 挨拶
4. 議事
 - (1) 令和5年度の地域づくりビジョン推進の取組経緯について（資料1 事務局）
 - (2) 地域づくりビジョン進捗評価手法（資料2 北総研）
 - (3) 質疑・懇談等
5. その他
6. 閉会

1. 開会（司会進行：事務局）

- ・ 配付資料の確認及び本日の流れについて
- ・ オンライン参加あるため発言はマイク使用依頼

2. 挨拶（芳野委員長）

今年度最後の審議会だが、今年度は地域づくりの進み具合をどう評価するかを目的として会議を行ってきた。なぜかそのうちに評価だけじゃなく、評価される側になってきたような気がしている。誰かがやっていたいかなければならない役割を担ってきたが、これからまだ手探りでさらに具体的にどうやっていったらいいか、何から先に手を付けていったらいいのかを、今後とも皆様とともに、知恵や力を出し合って今後の問寒別のためにいい意見が出せればと思う。

今日は審議会ということで率直な意見等どしどし出してもらって良い明日へ向けていいきっかけができればと願っている。

3. 挨拶（野々村町長）

夜分ご多忙な中お集まりいただきありがとうございます。

本日ご欠席の方も含め、委員・オブザーバーの方には、昨年6月から計5回の審議会において、地域づくりビジョンの推進のため継続的な議論を進め、審議会と一体的に実施してきた講演会等にも積極的にご参加いただいたことを厚くお礼申し上げます。

今年度は、昨年度策定した地域づくりビジョンを地域でどのように具体的に実施していくかを重点的に考える重要な1年になりました。ビジョンの中で問寒別地区を暮らしやすい地域にしていくために地域の新しい仕組みとして地域を運営する地域運営組織を作ろうという目標が掲げられており、その組織づくりに地域の皆様と行政で一生懸命取り組んでまいりました。

6月にはこのセンターに入りきらないくらいの皆様と一緒に、川北さんの小規模多機能自治についての講演を聞き、今動き出さないといけないという内から沸き起こる感情をみんなで共有することができました。

また、11月には島根県雲南市に組織の視察に行き、具体的な組織の形態や運営、取り組みなどを学び、大いに感化されたと聞いております。

さらに12月には道内2か所で地域づくりの取り組みを実践している講師においでいただき、地域活動のヒントをいただきました。

このような取り組みを通して、地域での組織形成に向けた議論が進み、現在の組織設立準備会という形で設立に向けて大詰めを迎えているところです。

こうした地域づくりの目に見える進展は地域の皆様、審議会委員やオブザーバーの皆様の気持ちや意思を持って自ら動かれてきた行動の賜物と敬意を表するところです。

町でも、まさに立ち上がろうとしている地域運営組織にどのような支援をしていけるのか、しっかりと検討していろいろな面で支援体制の整備を進めていきたい。

本日も問寒別地区における地域づくりの取り組みを進めるにあたって地域や組織、行政の取り組みをどう評価していくのか、闊達な議論いただければ幸いです。

結びになります。ビジョンの推進にあたり、貴重なご意見やご提言をくださった審議会委員やオブザーバーの皆様、関係者の皆様に厚くお礼を申し上げますとともに、地域の持続的発展に一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます、私からの挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いたします。

4. 議事

(1) 令和5年度の地域づくりビジョン推進の取組経緯について

(資料1 事務局 山下課長補佐)

- P.1: 幌延町・地域コミュニティ形成事業の目指すものは、望むなら誰もがいつまでも暮らし続けられる持続可能な地域集落づくりであり、この実現のために、小さな拠点のハードとして集落支援センターの設置、ソフトとしてその運営主体である地域運営組織の形成を進めるもので、このために地域の課題把握、懇談会、ビジョン策定などに取り組んできました。
- P.2: 国で進めている小さな拠点のイメージ図では、市街地の基幹集落と周辺の集落で構成される集落生活圏が必要な機能をネットワーク化しながら地域運営組織が地域に必要な機能を持続的に提供していく仕組みです。
- P.3: これまでのあゆみは、平成31年度から課題把握などを開始し、協力隊導入により実験的な取組を進め、途中新型コロナ禍で諸活動が停滞するものの、基礎的な調査収集分析を進めて、令和4年度に地域づくりビジョンを策定し、令和5年度以降は地域づくりビジョン推進のための取組を進めてきました。
地域づくりビジョンでは、地域や役場が担えなくなってきた地域活動の担い手として地域運営組織という新たな組織による解決策を提案しているおり、この組織形成に力を入れてきました。
- P.4: 地域づくりビジョンでは、スローガンのもと6つの地域課題と7つの重点項目を掲げています。
- P.5～8: 令和5年度の取組は、といかん本音トークなどの懇談会を随時開催し、アンケート調査や各種プロジェクトの実施、地域行事での新たな形を検証しました。また審議会は本日を含め5回開催し地域活動等の効果(アウトカム)を意識した地域活動等の評価手法を検討しています。9月以降は地域運営組織形成にむけて具体的な段階に入り、個別懇談会、設立検討会、団体等説明、設立準備会などを開催し、令和6年度4月のNPO法人設立総会を目指しています。
- P.9: NPO法人の概要は、名称をミナといかんで、ミナはアイヌ語で笑うの意味で、といかんでみんな笑顔で暮らしていきたい、みなどのようにみんなが集まる地域や居場所になってほしいという願いを込めました。

組織類型は、地域運営組織をNPO法人の形態で運営するもので、目的は地域課題解決のための協議機能と、地域に必要とされる機能を提供する実行機能を有する組織として、地域の歴史文化を守り、すべての人がいつまでも安心して健やかに

住み続けられる地域づくりに貢献する団体を目指します。

コンセプトは、地域活動を地域運営組織の専属職員が住民協力のもと必要な取組を実践実行することで、地域の負担を軽減していこうとするもので、専属職員が複数業務をマルチにこなしたり、地域内外のいろいろな世代が活躍できる場を創出したり、ボランティアと対価の発生を整理してしっかり稼ぐ仕組みをつくり、皆が楽しいと思える運営を心がけます。

会員は正会員と賛助会員で、正会員は個人で年会費は 3,000 円です。賛助会員は個人及び団体で年会費は1口500円です。

役員は理事5人、監事2人とする予定です。

○P.10:NPO法人ミナといかんの活動内容は、①地域交通や日常生活支援などの住み続け支援、②地域の施設等を管理する公共空間等の管理、③地域行事、団体支援、地域自主活動などの仕組みとして交流教育支援、④地域のしごと支援の仕組みとして民間事業支援などを想定しています。

例えば、①住み続け支援としては、真ん中の地域運営組織に専属の職員が所属する拠点で、地域にとって必要な地域交通や草刈り除雪などの日常生活支援の依頼を受け付け、地域住民のお手伝いや資機材の提供をいただきつつ、対価をもらってサービスを実施します。これに対して町は生活支援事業への補助金や委託費で支援します。これにより地域住民の外出機会の創出や利便性の確保などの効果が期待できます。

○P.11:NPO法人ミナといかんの体制・しくみは、地域運営組織で協議機能と実行機能を合わせ持った活動を実施します。地域づくりビジョンに沿って事業をしているかどうかを審議会において評価し、地域住民のニーズを把握しつつ協力応援をいただき地域活動を実践していく体制とします。

○P.12:令和6年度の町事業は、引き続き地域づくりビジョン推進のため審議会、各種懇談会やプロジェクトを進めていきます。また、小さな拠点整備として組織の設立や実験的拠点整備を進める予定です。

○P.13~16:地域活動実験的拠点として、空き家を取得しごちゃまぜネットワーク拠点の整備を進めます。また、といかんシェアハウスなども検討していきます。こんな地域になったらいいなという地域の夢を一枚の絵に描いて、いつでも皆が地域の将来像をイメージできるようにします。

○P.17~:地域づくりビジョン推進にあたって取り組んだ活動等写真も参考としてください。

(2) 地域づくりビジョン進捗評価手法（資料2 北総研 石井氏）

○ロジックモデルについて(簡単なまとめ)

- ・昨年度策定したビジョンをどう評価していくかを1年間かけて考えてきた。
- ・スローガンをもとに、様々な解決したい課題についてどのくらい解決・達成したかを測るもの。
- ・これまでは回数に縛られて、イントなどをやることだけが目的になりがちだったもの

を、その活動がもたらす実際の効果(アウトカム)に着目するもの。

- ・いろいろな取り組みで活用している資源、活動結果の向こうにある、短期的中期的長期的に得られるものを評価しようというのが今回の評価手法。アウトカムをリスト化して評価するもの。
- ・進め方は、ヒヤリングを行ってからモデルに当てはめ、評価していく。
- ・様々な地域活動のアウトカム調査の結果は資料を参照。なお、まだまだ聞ききれていない活動もある。
- ・といかんで大事にしていけないといけないのは何か(P8)→評価の指標の整理
 - ①交流や教育に関わること
 - ②教育
 - ③働き方の多様化
 - ④地域環境の付加価値化
- ・短期アウトカムから長期的アウトカムに向け、ツリー状になっている。
- ・これから活動していくうえでチェックリストとして持って行く必要がある。
- ・ビジョンの評価、アウトカムについては一部修正を加えた。(P.9)
- ・多様な働き方ができるように、また既存の団体活動のリーダー不足解消、公的機能増大、これらの必要性がこれまでの活動にはあまり見られず、求められるアウトカムとして追加された。(P.10)
- ・これらを踏まえ、企画・評価のチェックリストを作成した。
- ・これからといかんで何らかの活動を企画するとき、計画段階で考慮に入れるために参考にしてほしいリスト

(チェックリスト)

- ・1年に1回、ビジョンの達成状況がどうか住民にチェックしてもらう。
- ・次年度、これを用いてアンケート等で現状値を把握していく。
- ・審議会では毎年度末などで評価していく。
- ・チェックリストは必要に応じて変更していく。

(質問・意見)

- ・委員:コラボや醸成など、難しい言葉は簡単にした方がいい。
→変更する。初めて見る人も理解できるように、言葉の精査や補足を行う。
- ・委員:地域でやっているすべての事業についてチェックをしていくのか。
→1つ1つの事業についてチェックを行うのではなく、総合して1年間でリストにあるようなアウトカムが得られたかを評価していく。チェックリストは各団体が事業を行うにあたって参考にセルフチェックしていただくなどで使っていただく。
→ビジョンで目標と7つの重点項目で何に取り組んだか毎年整理されるべきもので、その検証のために使う。
→7つの重点項目は、やったやらない、何回やったなどは評価の対象ではないというのがきっかけで、それぞれの活動から得られるものがちゃんと得られているかを評価の対象にしようというもの。

(3) 質疑・懇談等

- ・委員氏：地域運営組織の専門の職員について、地域おこし協力隊の募集の進捗は？
 - 大手広告サイトで募集しており、現在2名の応募があった。まずは地域に来てもらうと日程を調整中。4月の4～6日あたりでおためし地域おこし協力隊を検討中です。
 - おためしの参加者には、診療など地域交通の見学、チラシポスティングによる地域把握、地域住民との交流などを予定している。
- ・委員氏：地域づくりビジョン審議会は来年度も続く？
 - 活動や組織を評価する機関として継続して残す予定です。
- ・委員氏：新しい組織の総会とプレイヤーが重なる気がするが、審議会でチェックする必要はあるのか。
 - 審議会のメンバーと組織のメンバーはかなり重なっていると思う。組織の会員が、身分がかわって審議会として評価できるかも考えねばならず、2つの会の在り方については、一旦役場の宿題にさせていただきたい。
- ・委員氏：企画者チェックリストは企画する人にとってわかりやすい。住民アンケートについては、いち住民として、自分がかかわっていなくて分からない活動に関しては正しい評価ができるのか疑問。
 - 評価方法をいかに地域に分かりやすく提供するかはこれから議論していきたい。自己評価は、すべての活動に関してこれを用いる必要はないが、地域づくりビジョンができて、地域づくりの方向性の柱ができて、それに対してその中で記されている考え方を地域から集めたいという側面があって、そこを選び出していくと、こういう活動の根っこがこういうことなんじゃないかということを表したのがチェックリストで、それぞれの団体が活動するために、それを参考にして事業を自己チェックしていただけると嬉しい。
 - 全体評価については、項目だけではわかりづらいので、地域の活動を紹介する資料をセットで配付することを考えていきます。
 - ロジックモデルで評価していくことも、もともと皆さんが感じていたことがこういうことだったのではないかとということを文字化してもの。具体的なところについてはもう少しすり合わせて精査していく必要がある。現状を可視化できるなら、チェックシートを用いながら評価できる仕組みを作ったうえで審議会での評価基準にしていけたらと考えます。
- ・委員氏：評価の表で、1～5の評価はいいが、かかわってない活動の評価はできないので、「はい」「いいえ」「わからない」などの方がいいのではないか。
 - 5段階か3段階はさておき、評価できない項目のために「わからない」、「評価の対象ではない」などの枠を作ることを検討します。
 - イメージとしては、地域づくりビジョンができて、地域で取り組んでいきたい基本的な目標7つに取り組んで地域の目標を達成しようというものを作った。それに対してどれぐらい近づいていっているかを評価していく上で、1年の取り組みを

振り返ったものを作りそれを評価し、これを踏まえて地域運営組織や法人、町の取り組みを毎年進化させて深めていく。これによって活動に変化を生じさせることで数年かけて評価をあげていく。その中で、毎年経年での過程を把握することで地域づくりビジョンの取り組みがどのように変化するかを見定めながら地域づくりを進めていくことができるのではないかとするための評価の手法です。

イメージとしては、その年の取り組みを紹介してどうだったのか評価する。その進捗を毎年測るといったもの。

今年度に関してはロジックモデルによる地域づくりビジョンの評価の基準指標を、こんなイメージで作っていきたいというものをお示しした。今後、次年度以降、地域住民の皆様にも現状での評価をいただいて審議会でも検討しながら、地域運営組織に対する審議会としての評価としたい。このアンケート用紙の評価項目はあらためてブラッシュアップしていきたい。

- ・委員氏：審議会としてはアンケート結果や企画者の自己評価表をチェックして、それをもとに法人に働きかけるといったイメージで大丈夫か。
→年度初めに可能な限り早く、地域向けアンケートを行い、夏くらいに収集した評価を分析したものをお知らせしていきたい。また地域の評価を見つつ、審議会としてもまとめたものを次年度の取り組みに活かし、意見交換をすることでチェック機能を果たす役割としたい。
- ・委員氏：メンバーが重なっていることで、自分のやったことにマイナスの意見なども目にすることもあるのではないかと。自分の評価もダイレクトに見えてしまうことでやりにくくなるようにも感じる。
→組織と審議会の位置づけについては検討させていただきたい。
- ・委員氏：やってくれる人がいるだけでありがたいが、その人がやりにくくなる要素も生まれてくるかもしれない。自分の評価がダイレクトに見えることになるのではないかと。
→来年度の審議会の構成含めて検討していきたい。

5. その他

- ・3月25日に設立準備会の5回目開催予定で、NPO 法人設立に向けて精査が必要な部分を検討します。
 - ・4月上旬に設立総会開催を予定しています。
 - ・2～3か月程度審査に時間かかるので 7 月頃に認証いただければ登記します。
- (オブザーバーから)
- ・オブザーバー：令和2年度から事業にかかわり4年目になる。ほかの事例でも最低 3～4 年はかかる。やはり必要性を決めて内容を決めていくのは時間がかかるもので、これからの 4～5 年間は既存の団体との兼ね合いが大きな課題になってくる。組織の設立ののちにはどう連携していくかを検討していきたい。
 - ・オブザーバー：密度の高いディスカッションで参考になった。少しずつ形が見えてきて、ハードの面で、活動の場・空間につながる話が聞けた。それを参考に今後もお手伝い続けていきたい。

・オブザーバー氏:評価の仕方はいろんな意見をいただいた。実際、評価も大事だが評価よりもとにかくみんなが集まって笑える場所が欲しい。問寒別のそれぞれの職業の人が、なかなか会えないが、とにかくの人に会いたがっている。とにかくの人がとにかくでとにかくの人と笑える場所を作って、どうしたらみんなが笑ってくれるかを考えるべき。もう地域に残された時間が少ないので、いろんな人が集える機会、場所を実現していきたい。いろんな属性の人と笑いあえる場所を作りたい。そのためには皆さんの協力が必要である。

6. 閉会（芳野委員長）

評価する人とやる人が重なるのもやりにくさがあると思う。この部分も精査しなきゃいけない。思うところは、問寒別みんなが笑顔でよかったと言える場所が大事で、評価をすることが目的ではない。いい結果を出せるようにみんな頑張っていきたい。

以上を持ちまして、第5回審議会を終了します。

(以上)



